

思えること、これは錯覚なのですが、これを持つことで安定した感情を作ることが出来る。これが愛着が形成されてくるということです。一方で、発達のつまずきというのは、この順番は順番として育つけれども、全体に時間がかかる。安心することを獲得するまでに、多少時間がかかるということになってきます。

もう一つ、親も育つのです。出産後のお母様から話を聞き取った研究がございます。出産後女性は一般的に感情と体験というものに違和感が生じる。どうもいつもの私じゃない、どうも何かが違う、ということですね。頭では理解できているけれども、目の前の赤ちゃんに対して有効な態度がとれないということです。追いつめられた時に、自分がどのように育ってきたか、育てられたかという体験記憶が活性化し、実質的な記憶が浮上して、「あっ、そのように向き合えばよいのだ」と、初めて納得のいく自信を持った新しい行動、思考、感情を持つことができるということです。このように、親御さんも初期の段階でとても苦労される。だからこの段階で支援が必要ということもあるわけです。

「ちょっと気になる」ことをどう理解したら良いか、情緒という心の部分と発達の経過と二つに分けて考えていくべきではないかと思えます。子どもさんは自分を気にしてほしい、僕の気持ちを分かって欲しいというようなサインを出している場合があります。これは情緒のサインです。

例えば、幼稚園に行くのを渋ったり、何か重要な時に、「お腹痛い」と不安そうに言ってみたり。それが、SOSとしてのサインです。これは相手に対しての入場券です。一つは知って欲しい。そしてそれを相手に伝えたことで、ちょっとした不

安は、一步解決に前進したという形になります。そのためには相手もそのことでとても困らないといけないということです。「ちょっとお母さん、お腹が。」「うん、大丈夫。薬飲んでけば。」ではサインにならず、もう一步踏み込んで関わってもらえないことになります。情緒のサインとしては、夜泣き・多動・吃音・頻尿・チック・腹痛・緘黙などはとても重要なものとして捉えます。

もう一つ、発達の経過、特に軽度の発達障害をお伝えしていこうと思います。軽度というのは実は多くの誤解にさらされやすく、軽いというのはアンバランスさを見逃しやすい、見落としやすいというだけであって、本人の生きる上での大変さ、生きる上での困り感というものには、重度も軽度もほとんど変わらないと思っています。

発達障害の一つに知的障害があります。その中でIQが50~70程度に位置する子どもたちを、軽度の精神遅滞と呼びます。また、言葉の部分での発達が偏ったり遅れたりする場合をコミュニケーション障害、表出する言葉・いわゆる言葉の出の遅れ、聞くという言葉での受容言語の発達の遅れ、あるいは吃音・どもり、発音がはっきりしないといった構音障害などがあります。

自閉症やアスペルガー症候群といわれる広汎性発達障害は、人との関わりがなかなかうまくいかない、あるいはコミュニケーションをとる上での言葉や、雰囲気を感じ取るということがどうもうまくいかないといったこと、想像力の障害としては、ごっこ遊び・見立て遊び・まねるということがどうも上手にいかない。そしてそれに基づく行動の障害としては、繰り返しの行動をよく示す、爪先を立てて歩く、くるくる回る、ぴょんぴょん飛ぶといったことでしょうか。スイッチがあった